

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立大類中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日：平成30年6月19日（火）
- ク ラ ス：2年1組（33名）、2年2組（33名）
- オリンピアン：小塚 崇彦 先生（スケート・フィギュアスケート）



■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、今日はオリンピックバリュー（エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト）について学ぼうと授業の目的を確認。
- ・運動の時間は「前回の自分を超えられるように頑張る」「仲間と助け合い、終わったらハイタッチする」「ルールを守る」という3点を意識して取り組むよう伝え、準備体操とじゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて、長縄跳びを実施（90秒間×2回）。「8の字跳び」「全員跳び」から跳び方を選択し、8の字跳びは一人ずつ跳んだ回数、全員跳びは跳んだ回数に人数を掛けた数の合計を競う。
- ・全チームが全員跳びを選択し、先生に縄を回してもらい跳ぶ人数を増やす等の作戦が見られた。

4. まとめ



- ・授業の冒頭で意識するよう伝えた3つの約束を守れたかを確認。体だけでなく頭も使いながら、前回の結果を超えられるように頑張っていたこと、仲間と話し合いながら協力し合っていたことを伝え、小さいことの積み重ねがオリンピックに繋がっている、次の座学の時間ではさらに詳しくオリンピックバリューについて考えようと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・クーベルタンの言葉を紹介しながら、近代オリンピックの復興について説明。オリンピックに出場しメダルを獲得することも重要だが、メダルだけが全てではなく、オリンピックバリューを体現することがそれ以上に大切であると話し、運動の時間の大縄跳びも記録が全てではなく、オリンピックバリューを皆が体現することが重要であると伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問①：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出す。
- 発問②：文化祭を成功させるために、意識したいことをオリンピックバリューに当てはめて考える。
- 発表：練習よりいい結果を出せるように努力する、1分1秒でも多く練習する(エクセレンス)、感じた事や考えた事をお互いに言い合う、一人ひとりが皆のために取り組む(フレンドシップ)、指揮や伴奏をしてくれる人に感謝する、皆で決めた事を守る(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・今日の授業で学んだ3つのオリンピックバリューは、オリンピックだけのものではなく、皆の日常生活や学校生活にも関係していることを伝え、東京2020大会では、事前合宿地等で多くの選手や関係者が来日するので、選手たちのオリンピックバリューも感じながら応援してほしいと話す。
- ・皆もオリンピックバリューを忘れずに様々な事に挑戦し、周りの人たちにも教えてあげてほしいと伝え、授業終了。

実 施 内 容

- 期 日 : 平成30年6月20日 (水)
- ク ラ ス : 2年3組 (33名)、2年4組 (33名)
- オリンピアン : 畑中 みゆき 先生 (スキー・フリースタイル)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)



1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・簡単な自己紹介の後、2時間を通してオリンピックバリューやオリンピックとは何かを学ぼうと授業の目的を確認。
- ・運動の時間では、各自心の中で「今日の目標」を設定し、チームメイトと協力すること、感謝の気持ちを持つことを意識するよう伝え、準備体操とじゃんけん勝ち抜け、手つなぎだるまさんがころんだを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施。90秒間で跳ぶことができた回数を競い、3組は全3回、4組は2回実施。途中で引っかけつても続きから数えることとし、各回終了後、跳んだ回数等を確認。作戦タイムを設け、前回の回数を超えるための作戦を話し合う。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に意識するよう伝えたことを実践できたか確認し、お互いの健闘を称えて拍手。
- ・運動の時間に感じたオリンピックバリューは運動以外でも大切な考えなので覚えてほしいと伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・畑中先生が出場したソルトトレックシティー大会およびトリノ大会の映像を見せながら、スキー・モーグルの特徴やルールについて説明。出場した2大会では大きなルール改正があり、ジャンプ難易度変更への対応等、様々な困難を乗り越えたこと等を紹介し、3つオリンピックバリューについて、畑中先生の経験に基づいて説明。

3. グループワーク



- 発問①：夢や目標をどのように達成していくか、オリンピックバリューに当てはめて考える。
夢や目標がまだ見つからない人は、運動の時間に感じたこと、実践したことをオリンピックバリューに当てはめて考える。
- 発問②：運動の時間で実践できたオリンピックバリューを考える。
- 発表：楽しみながら協力して1位を目指した、何事も諦めずに頑張った(エクセレンス)、声をかけて励まし合った、一致団結して一つの事に取り組んだ(フレンドシップ)、支えてくれた友達やアドバイスをくれた先生に感謝した、期待に応える、大きな声を出す事で団結力を深める(リスベクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活にも深く関わっているので、成長するための糧にしてほしいと伝える。
・自分の思いを言葉にして、目標を声に出すことで達成につながる。同様に相手に対する感謝の気持ちも、声に出さなければ伝わらない。畑中先生は小さな目標を1つずつ達成した結果、大きな目標を叶えることができたので、皆も自分の思いを言葉にしなが、目標を達成できる人になってほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 集合写真

2年3組



2年4組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

